

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
714	朱雀こども園

714朱雀こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
I 教育・保育活動に関するもの	(1) 教育・保育目標/計画	① 教育・保育目標の設定	<ul style="list-style-type: none"> 全職員が園の教育・保育目標、めざす子ども像を理解し、具体的な取組を計画し実践する。 保護者アンケートや学校評議委員などの評価から教育保育活動の検証を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 年度当初に全職員に方針を示し、教育目標に向け研究主題を設定した。「人とかかわることの心地よさ」に重点を置き取組を進めた。 懇談会や学年だより、地域へのおたよりなどで園の取組を発信し、日々の送迎時や個人懇談などでも、保護者の思いに寄り添い信頼関係づくりに取り組んだ。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 園目標や研究主題に基づき、子どもの生活と遊び、行事などの実践を行うことができたか。 保護者アンケートで「教育・保育目標が適切であるか」、研究主題である「人と関わる心地よさを感じているか」の項目において、昨年度よりも肯定的な評価がアップした。 	<ul style="list-style-type: none"> 子どもを真ん中にした教育・保育に必要な環境や援助について、日々保育の振り返りと気づきを職員間で対話する時間の確保。分園であるため両棟合わせての会議がもちにくいことから、早めに日程や議題などの調整を行う。 保護者の思いに寄り添うことや改善策を検討、また園の取組みの発信方法を探っていく。
		② 教育・保育計画の作成					
		③ 教育課程/全体的な計画の編成					
		④ 教育・保育活動の評価					
	(2) 教育・保育内容/指導	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 毎月の指導計画を見直し、学年ごとに計画を検討立案する。 園内研修を計画的に行い、保育の資質向上に努める。 日々の子どもの姿を基に保育者間で話し合い、発達に応じた環境構成や援助を明確にし、保育を行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 0歳から5歳までの発達の繋がりを意識した保育を行うことや研究主題について、乳児棟・幼児棟が共通理解できるよう会議を調整し、時間の確保や会議内容の共有に努めた。 園内公開保育では、多角的な子ども理解を深め、援助や環境構成の工夫や改善を図ることができた。また、ミドル職員が研修の企画運営を行い、職員間で学びを深めることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 乳児棟・幼児棟の会議は、互いに参加し内容を知り得ることから、発達の繋がりを意識することが出来ているか。 公開保育を実施した学年やクラスだけでなく、参加したすべての職員が子どもの見取り・援助・環境についての意識が高まり、対話することの大切さを学んだ。 	<ul style="list-style-type: none"> 乳児棟・幼児棟互いの会議に代表が参加し内容を知り得ているが、職員が多いことから周知の徹底に課題が残る。互いの保育を知り得る機会が必要である。 園内研修においても、討議内容や方法、参加できる体制づくりの検討を行う。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
		④ 評価					
	(3) 園行事	① 指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 子ども達が主体的に取り組み、心とからだ豊かになるように取組みの過程を大切に作る。 小中高校生や地域の方々とのかかわりを活かした取組をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 目的や内容を職員間で確認、検討しながら、子どもにとっての経験や学びとなるような活動ができた。 異年齢児、小中高校生、地域の方との交流を深め、人とかかわることの楽しさを感じながら、生き活きと活動に参加することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 例年行っている行事について、目的や内容について、全職員が理解をし、子どもにとっての活動になっているかどうか。 様々な人とのかかわりの中で、子ども達の姿や気持ちの変化に寄り添うことができていくか。 	<ul style="list-style-type: none"> 行事については、年間の保育内容に見直しをもち、子ども主体の活動であるかを常に意識できるようにする。 人とのかかわりの中での、一人一人の子どもの姿を発信する方法や保護者と共有するための体制づくりを探っていく。
		② 行事内容の精選					
	(4) 人権教育	① 人権教育指導計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 保育者自身が人権感覚を磨き、日々の保育の中で命の尊さや、一人一人が大切な存在であることを伝え指導していく。 様々な人との関わりにより、豊かな心が育まれるような保育内容の充実を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 日々の保育において、職員一人一人が自身の関わりや発言を振り返ることができるように、気になる事象は該当職員だけでなく朝礼などで全体に伝えた。 一人一人を大切にすることの取組では、家庭と共に子どもについて対話することができた。 着脱・排泄など、プライベートゾーンの必要性を職員間で再認識し、各部屋の環境構成に活かした。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保育者が、子ども一人一人の思いに寄り添い受け止めることで安心に繋がり、相手の気持ちに気づいたり、自身の思いを伝えたりする姿が増えている。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育者自身の人権意識の向上と、職員間で互いの行動や言葉がけ等についての気づきを言い合える風通しの良い関係づくりの構築が必要である。
		② 保育内容の精選					
		③ 指導方法の工夫改善					
	(5) 生徒指導	① 組織的な指導	<ul style="list-style-type: none"> 報告・連絡・相談を綿密に行う。 一人一人の幼児や保護者の思いに寄り添う。 家庭との連携を図る。 適切に実態を把握し、必要な場合は連絡をする。 対処方針や指導計画が明確である 日頃より実態把握・早期発見に努めている 各学級の状況を園組織として共有できている 保護者や地域と連携できている 組織的に迅速に対応する体制が整備されている 	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人の子ども理解や保護者理解のために、各クラスや学年、幼児棟と乳児棟（兄弟関係など）で情報共有し、対応やかかわりについて迅速に対応できるようにした。 毎朝の立哨時に挨拶を交わしながら、園での子どもの姿や家庭での様子を共有し、質問や悩みなどを話して下さったりすることが増え、知り得たことを担任とも共有することができている。 必要に応じて、園内での情報や対応を迅速に関係機関と共有し、手立てについて考えた。 子育て支援（きらきらランド）には、民生委員も参加して下さり子育ての見守りや相談にのって下さっている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「子どものことについて相談できる雰囲気、体制があるか」の項目について、95%以上の肯定的な評価を得た。 「担任以外の先生からも子どもに声をかけてもらい一人一人を大切にしてもらっていると感じる」とご意見をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「子どものことについて相談できる雰囲気、体制があるか」の項目について、あまり思わない・思わないと回答した保護者がいたこと。また、昨年と同様に「子どものことについて担任と話す機会が少ない」とのご意見がある。健康観察では、日々の活動について、具体的に知らせることや職員間（担任以外も）で子どもの様子の共有していき語り合えるように意識していく。
		② 教育相談・こども理解					
		③ 家庭との連携					
		④ 関係諸機関との連携					
		⑤ いじめ・児童虐待問題について					
	(6) 特別支援教育	① 推進体制	<ul style="list-style-type: none"> 一人一人を観察し、課題を明らかにして、具体的な指導方法を共通理解し取り組む。 保護者と連携し、成長していく子どもの姿を共に見守り、集団の中で一人一人の力を発揮できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 中堅研修の一環として園内の特別支援公開保育を行ったため、特別支援の研修の学びを他学年の支援者に伝えるための時間をつくらうことで、支援を要する子どもについての理解を深め支援方法について語り合うことができた。 特別支援教育コーディネーター、担任、特別支援担当が、連携をとりながら個別の支援計画を立案し、手立てにしていることができた。 園訪問・園巡回・教育相談などを通して、クラス間で支援について考えたり、保護者と共に就学や療育について考えたりすることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートで「一人一人の発達に合った個別の関わり」の項目について、肯定的な評価を得た。 支援を要する子どもが増加する中で、一人一人の特性に合わせた支援ができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 自園に特別支援コーディネーターがいることを強みに、今後も研修や自己研鑽に努め、支援を要する子どもへの関わりや援助は、すべての子ども達にも共通することの意識向上と実践に結び付けていく。
② 個々に応じた特別支援教育の内容							
③ 指導方法の工夫改善							
④ 家庭との連携							
⑤ 関係機関との連携							

(令和7年度)
自己評価書

園番号	園名
714	朱雀こども園

714朱雀こども園

大項目	中項目	小項目	具体的評価項目及び指標	取組と成果	評価	評価の観点・理由	課題及び改善方策
Ⅱ 園 経 営 に 関 す る も の	(1) 組織運営	① 園長のリーダーシップ	<ul style="list-style-type: none"> 園の教育ビジョンや園経営を伝え、リーダーシップを発揮する。 職員とのコミュニケーションを密にし、信頼関係の構築を図る。 職員間の意思疎通を図り、風通しの良い職場環境を作る。 学校関係者評価、保護者アンケートを実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 教育ビジョンを作成し、具体的な取り組みを職員、保護者、地域に発信した。 職員が意欲的に業務を行うために、役割分担をした。また、乳児棟、幼児棟のリーダーを決め定期的に情報交換するように伝えた。 両棟の教育保育内容の把握に努め、気づきを職員やクラスに伝え、一緒に方法を探ったり改善したりした。 職員一人一人の保育観や思いを傾聴し助言を行うことに努めたが、心身面すべての把握ができず病休の職員、突然の退職などで、職員の適正配置を行うことができなかった。しかし、両棟の職員間で補える体制を整えながら、助け合うことができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 分園、職員数の多さから、全職員への伝達、両棟の連携をどのように図っていくか。 分園であることの強みを生かした保育の取り組み、職員一人一人の強みを把握し、生き生きと業務を行うための方法を探る。 	<ul style="list-style-type: none"> 保育や業務についての意義や目的を職員とともに明らかにし、振り返り、見直し、検討、改善を行っていく。 分園で職員が多いことから、共通認識をもつこと、多様な保育観を受容することが課題である。適切な助言をしたり共に手立てを探っていくための方法を探る。
		② 園経営目標・方針					
		③ 職員の適正配置と運営への参加意識					
		④ 園務分掌等の連携					
		⑤ 会議の運営と位置づけ					
		⑥ 会議の結果					
		⑦ 職場の人間関係					
		⑧ 園評価の実施					
	(2) 研究・研修	① 資質の向上をめざした組織的・計画的な園内研修の実施	<ul style="list-style-type: none"> 子どもの姿に基づき研究主題を設定し、職員全員で取り組む。 園内公開保育、ミドル職員主催の園内研修を計画的に行い、資質向上に努める。 園外研修に参加しやすい体制づくりをする。また、学んだことを報告書にし回覧したり、伝えたりし保育に活かせるようにする。 「でいあシート」「うきうきだより」による、子どもの育ちを保護者と共有する。 	<ul style="list-style-type: none"> 園内公開保育では、観察の視点を明確にし、多角的な子ども理解に繋がった。他園の公開保育や研修への参加やオンライン研修の学びについては、報告書を作成してもらい両棟に回覧し、全職員で共有できるようにした。ミドル職員が、公開保育時の記録・カンファレンスを行えるように計画した。 年3回、ミドル職員が研修の企画運営を行い、保護者に発信したりアンケートを取るなど往還的な学びを行うことができた。 「でいあシート」「うきうきだより」を通して、保護者との対話に繋げ、作品展ではすべてをファイルにて掲示することで、両棟の保護者に啓発することができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 公開保育を行う側も参加する側も、明確な視点を持ち行うことで、気づきや学びがあり、共に手立てを考えることができた。 学んだことや子どもの姿を職員や保護者に発信する力、方法を身につけることができていくか。 知り得た知識だけでなく、学びを止めない意識をもち続けているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、園外研修への参加を増やすために、年間の研修を見える化し、見通しがもてるようにする。正規職員だけでなくすべての職員が自己研鑽できるための体制づくりにおいては課題も多い。 研修報告書は、参加者自身の学びを園内の職員に発信することができる方法であるので続けていきたい。しかし、職員が多く報告書の回覧に時間を要するため、改善方法を探る。
		② 保育改善を目指した保育研究・実践の実施					
		③ 園外の研修への積極的参加					
		④ 園外研修内容の共有					
		⑤ 研修成果の普及					
	(3) 安全管理	① 安全計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 安全管理マニュアルを基に、避難・防災訓練の実施と共に迅速かつ適切な対応ができるよう振り返りとマニュアルの見直し。 地域と連携した防災訓練を実施する。 交通安全教室の実施。 コードモン・サポートネットを活用し、園と家庭との連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 警察の方による交通安全教室、女性防災の方との避難訓練や消火訓練を行い子ども職員も危機管理の意識を高めた。 今年度も、看護師によるAED研修や怪我、病気について（けいれん、てんかんなど）の研修を行い、知識や対応について深めた。 安全管理に向け、両棟の門扉にロック式の施錠を始めた。 年間の避難訓練、引き渡し訓練などについて、両棟合同での会議を数回もち、訓練の方法などを探り実践することができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 避難訓練は両棟で内容や方法を毎月検討し実施する中で子ども達の防災意識が高まっている。引き渡し訓練を行い、保護者と共に防災意識の向上を高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理については、分園であることから、引き続き役割分担を明確にし、マニュアル避難訓練計画の見直しを続けていく。 分園であることを活かし、乳児・幼児の発達に即した安全な環境を整えていく。 近隣の公民館や小学校とも連携を図り、合同の避難訓練を行うための計画を作成していく。
		② 防災計画の立案					
		③ 危機管理体制の整備					
		④ 安全指導の工夫改善					
		⑤ 家庭との連携					
		⑥ 関係機関との連携					
	(4) 保健管理	① 保健計画の立案	<ul style="list-style-type: none"> 保健・健康に関する情報は、紙面の配布や玄関への掲示をし、意識していただけるように啓発していく。 アレルギー対応児や熱性けいれんをもつ子どもについて、職員間で共通理解し対応についてなど確認していく。 月毎の給食会議（喫食状況）、保護者とのアレルギー会議を実施する。 園医・薬剤師・管理栄養士・調理員などとの連携による健康衛生管理を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度より、1号認定児についても健康観察を行い、すべての子どもさんの体調把握に努め、小さな変化を逃さず、迅速な対応や保護者との連携をとることができた。 アレルギー対応マニュアルに関する園内研修を行った。日頃より調理室との連携を密にしたりしながら安全な給食、楽しく食べることを大切にできている。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 感染症ボードを活用し、保護者に知らせることができた。 食物アレルギーの個別対応児や熱性けいれん・てんかんの既往歴の把握と対応について全職員が周知できているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 食物アレルギー対応については、定期的な研修を繰り返し行い、すべての職員が把握、対応ができるように努める。
		② 心のケアや健康相談の体制の整備					
③ 健康観察、健康管理能力の育成							
④ 関係機関との連携							
⑤ 昼食（給食等）の衛生管理							
(5) 地域との連携	① 園情報の発信	<ul style="list-style-type: none"> 地域の会合、催しに積極的に参加し、ホームページや園ニュースなどで園児の様子や取り組みを発信する。 近隣のこども園・小・中・高校との連携を図る。 学校評議員会・CS会議・地域教育協議会で、意見交換を行い、地域力を生かした園の教育・保育を進める。 PTAと協力、連携を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の会議や催しに参加することやたよりを発行し園について知ってもらうことができるように努めた。でいあシートを小学校や地域の方に見ていただき、子どもの育ちを伝えた。 評議委員会を年に3回行い、運動会や生活発表会の予行練習を見ていただき園の取り組みを知らせたり意見をいただいた。 小中高校生・地域の方との交流を積極的に行い、人とかかわることへの喜びに繋がる活動に取り組んだ。 左京こども園と一緒に地域の行事参加に向け、交流を図り、保護者も参加することで、地域の活性化に繋げることができた。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートの「地域との触れ合いで豊かな心の成長に取り組んでいるか」の項目について94.3%と肯定的な評価が昨年度よりアップした。 地域に根差した園づくりができているか。 	<ul style="list-style-type: none"> 引き続き、地域に根差した園となるよう、また研究主題でもある「いろいろな人とのかかわり」を大切にするため、交流内容についても地域の方と相談しながら進めていく。 小学校との連携においては子ども達の交流、教育・保育内容についての共通理解がもてていないのが実情である。 	
	② 園（保育）公開						
	③ 小学校との接続・連携						
	④ こ幼保との連携						
	⑤ PTA・保護者会の活性化						
	⑥ 地域教育協議会との連携						
	⑦ 学校関係者評価の実施						
(6) 施設・設備	① 保育環境の整備	<ul style="list-style-type: none"> 施設点検を職員で行い、危険ヶ所や改善ヶ所の把握をし、整備する。 遊びの環境の見直しを全職員で行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の方の力もお借りしながら、清掃活動や環境整備で園内を美しくするように努めている。 職員が常に遊具や園施設に危機管理意識をもち、気づきを管理職に伝え、園内で対応できることは迅速に行った。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 保護者アンケートでは、施設の老朽化について多くのご意見をいただいた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も、不備な箇所については、迅速に課と連携し改善していきたい。 子どもの興味や発達に適切な環境、設備であるのかを常に意識し、伝え合いを続けていく。 	
	② 施設設備の有効利用						
	③ 施設設備の管理						
(7) 情報管理	① 公文書の收受・保管	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理について、全職員で共通理解する。 個人情報の取り扱いには十分注意し、管理と保護を徹底する。 情報管理の研修を受け、職員の意識を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> デジタルカメラ管理簿を使用し、データ移行、保管についても徹底することができた。 個人情報を扱う書類については、保管場所を決め施錠している。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 管理簿の確認を定期的に行った。 「こども園では、子どものプライバシーが守られている。」との設問に対して、94%の保護者が肯定的に回答している。 	<ul style="list-style-type: none"> 情報セキュリティについては、学期に1度程度、再確認をし、全ての機器や書類の管理が徹底できるようにしていく。 	
	② 公文書の作成						
	③ 個人情報の管理・保護						
	④ 情報の収集						
	⑤ 電子媒体の管理						